

若い木々の芽が伸び、色鮮やかな花々も満開を迎える春爛漫の今日、私達百二十四名は宮城学院高等学校に入学しました。世界中にコロナウイルスが蔓延しているなか、先生方のご尽力のもと、インターネットを介して入学式に参加できることを大変嬉しく思っております。本当にありがとうございます。

ただいま頂いた、校長先生、学院長先生、在校生代表の方からのあたたかいお言葉に、私達も宮城学院高等学校の生徒となったことを改めて感じ、伝統を引き継いでいくことへの責任に身が引き締まる思いがいたしました。これからの学校生活を通して、それぞれが、気品のある強く美しい宮城学院生へと成長していきたいと感じております。

私は三年前、宮城学院中学校の生徒となり、この校舎で様々な経験をしてみまいりました。日々の生活の中で学んだ、人と関わり合うことの大切さは、自分の考え方や行動に良い影響を与えていると感じています。相手を真っすぐに見つめ、互いに理解し合おうとする心から生まれた、絆や信頼関係は、ときに何よりも尊く普遍的なものになりました。また、行事ごとにそれらが深まっていくことへの喜びを、何度も感じる事ができ、充実した三年間を送ることができました。しかしその一方で、辛酸を舐める場面も数多くありました。どこにも出口を見つけられず、誰に相談することもできずに、一人で悶々と悩む時間も経験しました。ですが、先生方、家族、そして同級生たちからの優しさに助けられ、自分自身の足で悩みを乗り越えることができました。余計なことは何も聞かずに、思いやりのある言動で接してくれた周囲の人たちがいたからこそ、今私がここにいるのだと思います。人と深く関わることは時に痛みを伴うこともあるでしょう。ですが、それを理由にして避けていては惜しいほどに、可能性と愛おしさに満ちているのだと、これらの経験から学びました。高校生活でも、人との関わり合いを大切にしながら、新しい仲間とかけがえのない時間を共有していきたいです。

インターネットが急速に発達した現代においても、人間がこの世界で生きていくためには、他者との交流や関わり合いが不可欠であると思います。そんな社会の中で、円満かつ公平に物事を進めていくためには、この学校のスクールモットーである「神を畏れ隣人を愛する」という精神が必要であると私は考えます。人間の力が及ばない「何か」によって自分たちが作り出されたのだという謙虚さと誇り、同じようかけがえのない存在である「隣人」を愛する心。どちらも不安定な今の世界情勢の中では非常に重要だと思います。自分たちだけに都合の良い世界を築いてしまうのは簡単で、一部の人間にとっては合理的なことなのかもしれません。ですが、視点を、世界規模にまで広げてみれば、世界中の隣人たちも同じように感じているわけではない、ということに気が付くはずで、自己中心的な物の見方をすれば、その分だけ、他の人が被害を受けることになるという理を覚え、自分と同じように人を愛する女性へと成長していきたいです。

高校生活において最も大切なことは、人との繋がりを自らの手でたくやかなものに紡ぐことと、将来のために一生懸命勉学に励むことだと考えます。これからの三年間で私達一人ひとりが、固い絆で結ばれた仲間となれるよう、ぶつかることを恐れず、より良い関係を築いていけるよう努力していきたいです。また、勉強面においても、後悔のないよう、自分が出せる全力を尽くして、定期試験や模擬試験に挑みたいと思っております。

私達新入生百二十四名は、「神を畏れ隣人を愛する」という生き方を心に留めながら、何事にも全力で取り組み、輝かしい青春時代を、宮城学院生として誇り高く過ごしていくことをここにお誓いし、新入生代表の言葉とさせていただきます。